

各指導類型の長所・短所をふまえて 教育課程の編成をします

これまで主流であったA・B年度方式と推進指定校で実践された
学年別指導の長所と短所は、次のとおりです。

A・B年度方式

長所

- ・異学年による多くの人数で学ぶことで、多様な見方や考え方が出る可能性が大きい。
- ・個に応じた指導をする時間を生み出しやすい。

短所

- ・系統的な内容の指導、特に技術的な面の指導が難しい。
- ・下学年の児童の能力差や経験差が埋められない場合が多い。
- ・転入児童に対する学年を超えた内容についての未学習への対応が必要である。

学年別指導

長所

- ・通常のカリキュラムで学習できるので、教科の系統性をふまえた指導ができる。
- ・転入児童に対する学年を超えた内容についての未学習への対応の必要がない。
- ・特に学年による差の大きい1・2年生において指導がしやすい。

短所

- ・直接指導と間接指導の組み合わせとなり、指導が複雑で難しい。
- ・2学年分の教材研究や学習の準備が必要となり、教員の負担が増す。

したがって、子どもたちや学級、地域の実態を把握し、各指導類型の長所、短所をふまえたうえで年間指導計画を作成し、子どもたちの成長につながる教育課程を編成することが求められます。

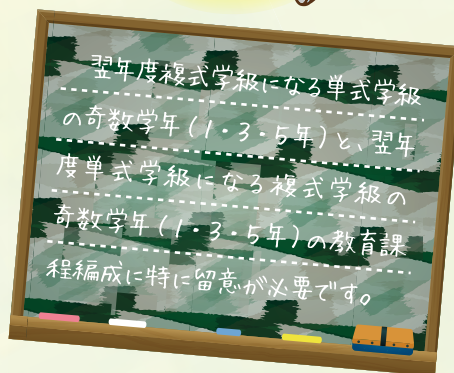
教育課程の編成にあたっては、平成28年3月発行の「複式学級指導の手引き（平成27年度改訂版）」並びに教育用ポータルサイトに掲載している同手引き（平成29年一部改訂）を参考にしてください。

単式学級には学年別の順序によらない 教育課程編成は認められていません

～単式から複式へ、複式から単式へ移行する
学級における教育課程編成に留意を～

複式学級においては、特例として学年別の順序によらない教育課程編成が認められています。一方、単式学級又は複式学級において学年別指導の教育課程を編成する場合には、この特例は認められておらず、小学校学習指導要領に示されている当該学年の目標及び内容で学習するよう教育課程を編成しなければなりません。

詳しくは、平成30年12月28日付け島教指第962号「『複式に移行する単式学級』及び『単式に移行する複式学級』における教育課程編成について（通知）」に添付の別紙を参照していただくとともに、不明な点は、学校を所管する各市町村教育委員会に問い合わせてください。



「ガイド学習」をご存じですか？

「ガイド学習」とは、異単元異内容の学年別指導を行う際、授業における間接指導をより充実させるために考え出された学習の形態の一つです。学習集団の中から「ガイド役」の児童を決め、そのガイドが教師との事前の話し合い等により立てた学習計画に沿って授業を進める方式で、教師がもう一方の学年で直接指導を行っている間、ガイドを中心として児童が協力して学習することで、間接指導の質を高めることをねらいとしています。

ガイド学習は、毎回特定の児童が行うのではなく、当番制で行われることから、どの児童も学習の進行役となるチャンスがあります。はじめは教師の作成したガイドカードに沿って、戸惑いながら進行していた児童も、回数を重ね、学年が上がるにつれ、ガイドカードに頼らずともガイド役を担うことができるようになります。また、協力して学習を進める中で、集団意識を高め、社会性を育てることや、教師の指導による受け身の学習ではなく、能動的・主体的に学習する態度を養うことも有効です。

ガイド学習は、単式・複式という学級形態にかかわらず、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に結びつく学習形態であるといえます。複式学級を担任した経験がない先生方や、中・高等学校の先生方にも、よい機会を捉えて複式学級の授業実践を見ていただければ、指導者の工夫や児童の姿から、自分の授業づくりのヒントを得ることもできるのではないのでしょうか。



《ガイド学習によるガイドの役割例》

1 学習の準備	・個々の児童の準備物の指示 ・教具のセッティングやワークシートの配布
2 学習の進行	・話し合いの司会や掲示 ・簡単な板書 ・めあての設定やふりかえりの発表
3 学習規律を整える	・活動への協力を促す ・よりよい学習集団作りのための声かけ
4 学習の目標を達成する	・困っている児童へのサポート ・全員がわかるための学び合いのリード

◆複式学級指導の充実にご活用ください◆

平成26年度から複式学級指導の充実に向けた県内の教員向けの支援として、複式教育総合支援事業を実施しています。本リーフレットで紹介した複式教育推進指定校事業もそのうちの1つです。その他の取組を紹介しますので、各校での複式学級指導の充実に活用ください。

- (1)複式学級指導の手引き（平成27年度改訂版）一部改訂（ポータルサイトに掲載）
- (2)複式学級新任担当者研修
初めて複式学級を担当する全ての教員及び希望者を対象に、5～6月に半日、2学期以後に1日（学校会場）の研修を実施する予定です。
- (3)出前講座の実施
島根県教育センターでは、複式教育をテーマにした「出前講座」を実施しています。学年別指導の授業をビデオで視聴するなど、実践的な内容を中心に行っています。

- (4)先進地の実践事例紹介（ポータルサイトに掲載）
他県の複式学級の国語・社会・算数・理科の学年別指導の実践事例を掲載していますので参考にしてください。



□島根県教育用ポータルサイト 幼稚園/小中学校>教育指導課>学力育成>複式教育

島根県教育委員会 平成31年3月

複式学級指導充実のために

～平成30年度複式教育推進指定校事業リーフレット～

複式学級とは、どんな学級か知っていますか？

児童又は生徒の数が著しく少ない場合、数学年の児童又は生徒を1学級に編制することができます。このような学級を複式学級と言います。

法的根拠:公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律（以下「標準法」という）

1学級の児童又は生徒の数の基準は、標準法で示す数を標準として、都道府県の教育委員会が定めることとされ、島根県教育委員会では、独自に以下のようになっています。

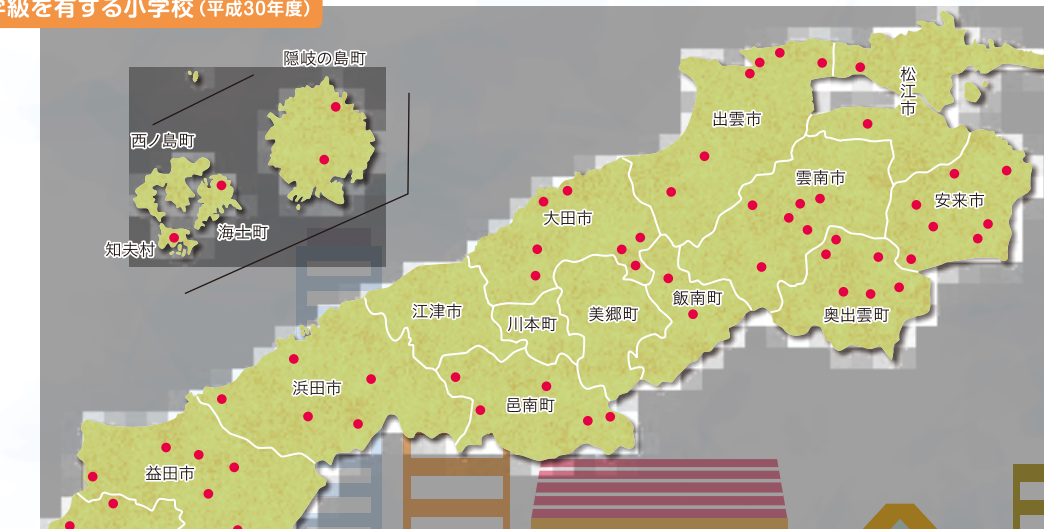
中学校… 特別支援学級を除き、法律で示された基準の生徒数8人以下であってもすべて「単式学級」として編制する。（島根県独自）

小学校… 複式学級の児童数は16人（第1学年を含む学級は8人）すべて1・2年、3・4年、5・6年の組み合わせで編制する。（島根県独自）

島根県の複式学級を有する小学校の状況は、 この10年で大きく変化しています

昭和50年代後半以降、島根県の複式学級を有する小学校数は、ほぼ90～100校の間で安定していました。しかし、ここ約10年で市町村立小学校は約50校、そのうち複式学級を有する小学校数は20校近く減少しています。

複式学級を有する小学校（平成30年度）



島根県には62校、全小学校数の31%の複式学級を有する小学校があります。（平成30年度）

	松江管内	出雲管内	浜田管内	益田管内	隠岐管内	合計
●複式学級を有する小学校数	9	20	17	12	4	62
小学校総数（義務教育学校前期課程を含む）	52	66	50	24	11	203
複式学級を有する小学校の割合（%）	17	30	34	50	36	31

●複式学級では、どのように授業を行っているのでしょうか？

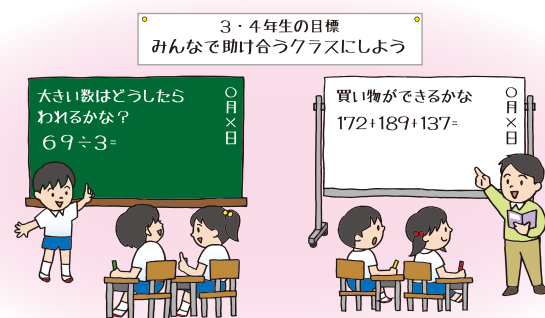
異学年の子どもたちが、同じ教室空間で学ぶ場合、大きく次の二通りの学習形態があります。

一つ目は、低・中・高、それぞれ2学年分の内容を2年間に配当して目標を達成する同単元同内容による指導（以下「A・B年度方式」という）方法です。島根県内の複式学級では、県独自の学級編制基準により低・中・高の完全複式で安定的に学級が編制されてきました。この2つの異学年間での授業実践については、各学校で豊かな成果の蓄積や継承があり、今日に至っています。

一方で、教科の系統性からA・B年度方式が難しい算数は、2つの学年が異単元の内容を学習する「学年別指導」を行ってきました。教員が双方の学年の学習過程の直接指導と間接指導の場面を「すらし」、それによって両学年間を「わたり」、指導をする指導方法です。

しかし、近年は児童数の減少等により、単式学級から複式学級になったり、欠学年が生じて単式学級になったりすることが多く見られます。このように単式・複式を繰り返す学級では、法令の定めにより、算数以外でも学年や教科の種類によっては「学年別指導」による指導が必要となってきています。

学年別指導の必要性が高まっている中で、同時に2つの学年を指導するためには、その指導力が必要となってきます。



●複式教育推進指定校事業について

平成26年度から、これまで本県で取り上げられることの少なかった国語、社会、理科における効果的な学年別指導の在り方を研究し、成果の普及を図ることを目的として、複式教育推進指定校事業を実施しています。

平成29年度は、複式学級における学年別指導の充実を目指し、算数を新たに対象教科に加えしました。

◆平成30年度 複式教育推進指定校事業の取組

- 複式学級を有する小学校3校（東部・西部・隠岐）を指定
- 内容
 - ・国語、社会、算数、理科の学年別指導方法についての研究（学校が1教科以上を選択）
 - ・学年別指導の授業公開
 - ・先進地視察 等
- 事業費 1校あたり30万円

平成30年度指定校の取組

「雲南市立西日登小学校」

1 学校について

- 複式学級 中・高学年
- 研究主題
 - 主体的に学び、共に高め合う子どもの育成
 - ～子どもがつくる算数授業のあり方を追求して～

3 授業公開：平成30年12月5日（水）

- 第3・4学年 第5・6学年 ●単元
- 校外参加者 34名

2 年間の取組

- (1) 先進校視察・研究会参加等
 - ◎広島大学附属東雲小学校
 - ◎神奈川県川崎市立旭町小学校 ほか
- (2) 研究授業
 - ◎3・4年複式算数科訪問指導（7月・12月）
 - ◎5・6年複式算数科訪問指導（9月・12月） ほか



- 「かけ算」（第3学年）「小数のかけ算とわり算」（第4学年）
- 「百分率とグラフ」（第5学年）「資料の調べ方」（第6学年）

実践から得られた学年別指導のポイント

◆児童が解きたくなる課題設定と提示の工夫を！

授業の流れを支える「学習問題の提示」と「めあて」を重視し、導入時には「すらし」によって指導者がそれぞれの学年につけるよう工夫しました。学習課題を明確にすることで、「今日の授業では何を考えるのか」を、児童一人一人が確実につかむことができます。

◆「見守る姿勢」を大切にしながら間接指導で「子どもがつくる授業」の充実を！

間接指導の場面では、ガイド役の児童が友達の発言のキーワードを拾い、文字や絵、図にして板書できるようになってきました。児童の話合いが焦点化され、思考を深めることにつながりました。指導者は板書から、子どもの話合いを揺さぶるタイミングや方法を検討し、過度に干渉することがないようにします。

複式学級ではない1・2年生においても、問題場面を絵や図に表して考えたり説明したりすることができるよう、指導者がモデルを示し継続して指導していくことで、「子どもがつくる授業」へ向けた基本的な力を育てています。



「邑南町立阿須那小学校」

1 学校について

- 複式学級 低・中・高学年
- 研究主題
 - 楽しさやよさを感じ、主体的に学び、高め合う児童の育成
 - ～算数科を中心に「主体的・対話的で深い学び」を視点にした授業の改善を通して～

3 授業公開：平成31年1月31日（木）

- 第3・4学年 ●単元
- 校外参加者 20名

2 年間の取組

- (1) 先進校視察・研究会参加等
 - ◎広島大学附属東雲小学校複式座談会（全職員で参加）ほか
- (2) 研究授業
 - ◎5・6年複式算数科訪問指導（9月）ほか
- (3) 実践発表
 - ◎第35回島根県算数・数学教育研究会（安来）にて複式算数科の指導について発表



- 「かけ算の筆算2」（第3学年）
- 「小数のかけ算とわり算」（第4学年）

◆算数の授業改善を見据えた2つの授業モデルの実践を！

学び合い学習の充実を目指し、算数の授業を2つのパターンに整理しました。学ぶことの楽しさやよさを感じることで「基本的な学習」の展開、もう一つは予想や既習事項などとの「ズレ」から問いを生み、全体に広げて集団思考へとつなぐ、「思考力を伸ばす学習」の展開です。

◆ガイド学習が形式的にならない授業展開の工夫を！

授業のねらいや内容によって、次の3通りの構成で授業を展開しました。①両学年ともにすべて同時間接指導の展開、②授業の導入で直接指導を行う展開、③片方の学年に軸足を置き、その学年の導入のみ直接指導を行う展開。いずれの場合も中盤以降は同時間接指導で児童の主体的な学びを支えます。

教師主導で画一的な授業から脱するために、校内研究として授業モデルを作成しました。これらの「型」（モデル）を基本形として、無数の応用形を生み出し、柔軟な授業展開を心がけることが重要と考えています。



「隠岐の島町立北小学校」

1 学校について

- 複式学級 低・中・高学年
- 研究主題
 - 主体的に学び、考えを伝え合う子どもの育成
 - ～算数科におけるガイド学習を通して～

3 授業公開：平成30年11月29日（木）

- 第1・2学年 ●単元
- 校外参加者 17名

2 年間の取組

- (1) 先進校視察・研究会参加等
 - ◎広島大学附属東雲小学校
 - ◎下関市立豊田中小学校
- (2) 研究授業
 - ◎1・2年、3・4年複式算数科訪問指導（6月・10月）
- (3) 校内研修
 - ◎週1回の交換授業公開（他学年の授業を見合う）



- 「ひき算」（第1学年）
- 「かけ算（2）」（第2学年）

◆学び合いの場で考えを深める手立てを！

自分の考えを分かりやすく伝えるため、常に絵、図、表を使って説明できるよう習慣づけるとともに、友達の考えを正しく理解するために数、式の意味などについて質問し合うことで、話合いの視点を児童自身が意識化することができるようになってきました。

◆教師の支援のあり方を吟味し、ガイド学習を充実させる！

学習課題のめあてとは別に、学び合いのめあてを明確にして指導にあたり、学び合いの場での良かった点を具体的に児童にフィードバックし、児童の説明力や質問力を向上させることを意識しました。

「指示しながら説明する」「図を使って説明する」など、児童の説明力、質問力を系統立てて整理した「学びを深める学年別能力表」を作成し、全教職員が共通理解の上で指導を行っています。

